

2-2 学生の入学・定員・卒業数, 進路

2-2-1 入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

《体育学部の入学者受入れ方針》

体育学部では、豊かな人間性、健康・スポーツ科学に関する専門的知識と実践力を身につけた人材を養成することを目的にしているため、以下のような人を求めている。

1. 入学後の修学に必要な一定レベルの学力を有するとともに、体育学科では特定のスポーツ種目に秀でた技能を持っている人
2. 幅広い教養と、健康・スポーツに関する専門的知識、運動技術や柔道整復術の修得に向かって努力する人
3. 体育・スポーツ分野の教員もしくは指導者、公務員、企業人、あるいは健康分野の医療人として活躍したいと明確な目的意識を持っている人
4. 体育・スポーツや健康について学んだことを糧として、社会の多様な分野でリーダーとして、その発展に貢献しようとする目的意識を持っている人
5. 高校での学習において、保健・体育の学びを深め、多くのスポーツ種目を幅広く経験し、体育学科では特定のスポーツ種目の技能を高めている人

体育学部 体育学科

体育学科では、豊かな人間性を備え、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家の養成を目的としている。このため、以下のような人材を求めている。

- (1) 一定レベルの学力を有し、特定のスポーツ種目に秀でた技能をもっている人
- (2) 幅広い教養と専門的知識の修得、運動技能の向上に向かって努力する人
- (3) 体育・スポーツの領域で教員もしくは指導者として活躍したいという明確な目的意識をもっている人
- (4) 社会の多様な分野でリーダーとして活躍したいと明確な目的意識をもっている人

以上の学科の求める人材像に基づき、体育学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ① アドミッション・オフィス入試では、一般教養試験 (100点) により基礎的な学力を評価する。また、調査書や課題文 (100点) 及び面接 (100点) によりこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ② 系列校推薦入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書や小論文 (100点) 及び面接 (100点) により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③ スポーツ・芸術推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。調査書や小論文 (100点) 及び面接 (100点) により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

- ④公募制推薦入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。学習到達度検査（100点）により学習の到達度を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑤一般入試では、学力試験（200点）は、①国語（100点）、②英語または数学（100点）により実施し、高等学校での学力を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑥大学入試センター試験利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学力を評価する。また、調査書により高等学校での学びの実績や人柄などを総合的に評価する。
- ⑦社会人入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、体育・スポーツ界で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

体育学部 健康科学科

健康科学科では、健康・医学の専門性を身につけ、広く人間の健康を科学する医療人の養成を目的にしている。このため、以下のような人を求めている。

- (1) 入学後の修学に必要な一定レベルの学力を有している人
- (2) 豊かな人間性を育み、チームワークを大切にし、社会性のある行動を積極的に実践しようとする人
- (3) プロフェッショナルな指導者としての責任を自覚し、社会的進化に気概をもって取り組もうとする人
- (4) 学習意欲とコミュニケーション能力の向上に努力し、学問の構築および研究的な思考を身につけようとする人

以上の学科の求める人材像に基づき、健康科学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性などを多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①アドミッション・オフィス入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、調査書や課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②指定校推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③系列校推薦入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

- ④スポーツ・芸術推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤公募制推薦入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。学習到達度検査（100点）により学習の到達度を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑥一般入試では、学力試験（200点）は、①国語（100点）、②英語または数学（100点）により実施し、高等学校での学力を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。（全学科）
- ⑦大学入試センター試験利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学力を評価する。また、調査書により高等学校での学びの実績や人柄などを総合的に評価する。
- ⑧社会人入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、健康理想社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

《次世代教育学部の入学者受入れ方針》

次世代教育学部では、豊かな人間性、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知と実践力を身につけた教育者、保育者、国際人、指導者を養成することを目指しているため、以下のような人を求めている。

1. 次世代の教育や現在社会の課題に強い関心をもっている人
2. 教育者に必要な専門知識とそれを活用できる教育実践力の修得を目指す人
3. 幅広い教養と子どもの発達や個性に応じた教育に関する専門的知識の修得に向かって努力する人
4. 豊かな人間性を培い、グローバル社会の新たな教育者として、国際的な視野での「コミュニケーション能力を磨き、思考力・判断力・表現力の修得を目指す人

次世代教育学部 こども発達学科

こども発達学科では、未来を担う健全な次世代を育てることができる保育者・教育者・指導者として活躍する人材の養成を目的としている。このため、以下のような人を求めている。

- (1) 子どもの発達や個性に応じた保育・教育のための、専門知識と保育実践力の修得を目指す人
- (2) 家庭や地域への「子育て支援」の専門家として、主体性・多様性・協働性の修得を目指す人
- (3) グローバル社会の新たな保育者として、国際的な視野での「コミュニケーション能力を磨き、思考力・判断力・表現力の修得を目指す人

以上の学科の求める人材像に基づき、こども発達学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価

するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①アドミッション・オフィス入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、調査書や課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②指定校推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③系列校推薦入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④スポーツ・芸術推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤公募制推薦入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。学習到達度検査（100点）により学習の到達度を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑥一般入試では、学力試験（200点）は、①国語（100点）、②英語または数学（100点）により実施し、高等学校での学力を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑦大学入試センター試験利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学力を評価する。また、調査書により高等学校での学びの実績や人柄などを総合的に評価する。
- ⑧社会人入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、保育者・教育者・指導者として活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

次世代教育学部 教育経営学科

教育経営学科では、次世代に向けて、グローバルな視野を持ち人権感覚の鋭い教育者、指導者、地域のリーダーとして活躍する人材の養成を目的としている。このために、以下のような人を求めている。

- (1) 次世代の教育や現在社会の課題に強い関心をもっている人
- (2) 子ども達に学ぶことの楽しさ・学び方を教え、伝えることに意欲のある人
- (3) 幅広い教養と教育に関する専門的知識の修得に向かって努力する人
- (4) 豊かな人間性を培い、社会人としてのモラルを高めようとする人

以上の学科の求める人材像に基づき、教育経営学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性を多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①アドミッション・オフィス入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、調査書や課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ②指定校推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.2以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③系列校推薦入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④スポーツ・芸術推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤公募制推薦入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。学習到達度検査（100点）により学習の到達度を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑥一般入試では、学力試験（200点）は、①国語（100点）、②英語または数学（100点）により実施し、高等学校での学力を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑦大学入試センター試験利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学力を評価する。また、調査書により高等学校での学びの実績や人柄などを総合的に評価する。
- ⑧社会人入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、教育現場で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

次世代教育学部 国際教育学科

※募集停止のため、掲載無した人

《経営学部の入学者受入れ方針》

経営学部では、豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力養成を目的にしているため、以下のような人材を求めている。

1. 知識・技能を保有し、社会の出来事を把握し理解できる人
2. 努力して目標を達成した経験を持ち、自身の強みと弱み、価値を語れる人
3. 目的達成のために課題を解決し、採るべき方策を考え、自分の意見としてまとめることができる人
4. 自分の考えを的確に表現し、客観的な分析に基づいて相手に伝え、説得できる人
5. 次のような関心、意欲、態度、が備わっている人
 - (1)主体的に学習に取り組みたいという意欲
 - (2)経済、技術の動向や、企業活動への高い関心
 - (3)ディスカッションを通じて自信及びチームメンバーの全体の学習向上を図りたいという意欲
 - (4)グローバルな環境に触れ、理解したいという意欲
6. 英語力の向上及び理数系科目を含む基本的な学習に高校等でも積極的に取り組み、同時に、文章の読解力、表現力向上を目指し、多くの読書を行っている人

経営学部 現代経営学科

現代経営学科では、現代経営に関する総合的なリベラルアーツを身に付け、経済・産業の諸分野において中核を担う企画力と実行力、及び起業家精神をもつ有為な人材の養成を目的としている。このために、以下のような人材を求めている。

- (1)知識・技能を保有し、社会の出来事を把握し理解できる人
- (2)努力して目標を達成した経験を持ち、自信の強みと弱み、価値を語れる人
- (3)目的達成のために課題を解決し、採るべき方策を考え、自分の意見としてまとめることができる人
- (4)自分の考えを的確に表現し、客観的な分析に基づいて相手に伝え、説得できる人
- (5)次のような関心、意欲、態度が備わっている人
 - ①主体的に学習に取り組みたいという意欲
 - ②経済、技術の動向や、企業活動への高い関心
 - ③ディスカッションを通じて自信及びチームメンバー全体の学習向上を図りたいという意欲
 - ④グローバルな環境に触れ、理解したいという意欲
- (6)英語力の向上及び、理数系科目も含む基本的な学習に高校等でも積極的に取り組み、文章の読解力、表現力向上を目指し、多くの読書を行っている人

以上の学科の求める人材像に基づき、現代経営学科での学習に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等の学力や人間性などを多面的に評価するため、以下の選抜方法により入学者の選抜を行う。

- ①アドミッション・オフィス入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、調査書や課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

- ②指定校推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ③系列校推薦入試では、本学と系列校の生徒で、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.5以上の者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ④スポーツ・芸術推薦入試では、学校長の推薦が得られ、高等学校の調査書の評定平均が3.0以上でかつ、運動・芸術のいずれかに優れ、その成果を客観的に証明できる者を対象とする。調査書や小論文（100点）及び面接（100点）により高等学校での学びや運動、芸術などの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの熱意や適性を総合的に評価する。
- ⑤公募制推薦入試では、学校長の推薦が得られる者を対象とする。学習到達度検査（100点）により学習の到達度を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑥一般入試では、学力試験（200点）は、①国語（100点）、②英語または数学（100点）により実施し、高等学校での学力を評価する。また、調査書や面接（100点）により高等学校での学びの実績、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。
- ⑦大学入試センター試験利用入試では、大学入試センター試験での、国語・外国語・数学のうち、高得点の2科目をそれぞれ100点に換算をし、高等学校での学力を評価する。また、調査書により高等学校での学びの実績や人柄などを総合的に評価する。
- ⑧外国人留学生入試では、日本語能力試験N2程度以上の者を対象とする。日本語試験（100点）や面接（100点）により、日本語能力や異文化理解の精神、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科の特性の理解と学びへの意欲や適性を総合的に評価する。（現代経営ビジネス）
- ⑨社会人入試では、一般教養試験（100点）により基礎的な学力を評価する。また、課題文（100点）及び面接（100点）によりこれまでの学習や社会人としての活動の状況、考える力やコミュニケーション能力、企業、社会で活躍したいという意欲や姿勢、本学科のアドミッション・ポリシーの理解と明確な志望動機、学びへの熱意や適性を総合的に評価する。

[平成30年5月1日現在]